市町村社協のここがイチオシ!!

「身近な地域で顔の見える関係づくり」

～小地域福祉活動を進める栗原市社会福祉協議会の取り組み～

最近、住民同士の支え合いの大切さがクローズアップされています。社会福祉協議会（以下「社協」）は、これまで小地域福祉活動を推進してきました。

今号では、平成18年から行政区単位で地区社協を組織化し、小地域福祉活動を進めている栗原市社協の取り組みを紹介します。

笑いがたくさん、留場（とめば）北地区の安否確認とお茶っこ会

「あら～あんだ、うまいね～」みなさん大声で歌ったり、大笑いの声。

栗原市築館留場北地区社協のお茶っこ会での一場面です。会場に入ると、何とも温かな雰囲気が伝わってきました。「はじめは、社協からお話をいただいて、一人暮らしの方々の安否確認から始めたんです。でもそのうちに、近所のおばあさんが大変そうにゴミ出しをしている姿を見て、月に一度安否確認を兼ねて廃品を回収しに地域を回り、その後お茶っこ会をしよう！とスタートしました。」とお話してくれたのは、築館留場北地区社協会長の鈴木次男さん。

▲留場北地区のお茶っこ会の様子。毎月25日に地域の見守りを兼ねて廃品回収に行き、その後、家で取れた野菜を持ち寄り料理をして、お茶っこ会。冗談を言いながら笑い合っていました。

▲栗原市社協地域福祉課の皆さん。小地域福祉活動だけでなく、生活福祉資金貸付事業や日常生活自立支援事業、団体支援、放課後児童クラブなど、その範囲は多岐にわたります。残念ながらこの日は小地域福祉活動を進める２人の職員は外出中。

今では会もすっかり定着し、「あんだ今度もくるすぺや」などと誘い合い、皆が楽しみにする地域の活動になりました。

栗原市社協が進める小地域福祉活動

留場北地区社協が組織されたのは、平成18年。栗原市社協が進める地区社協の組織化と小地域福祉活動の実践をいち早く始めた地域です。このような地区の社協が栗原市社協には199地区あります。

栗原市社協では、今後少子高齢化や過疎化が進むと予想されることから、すぐに駆けつけられる行政区単位の活動に視点を置き、地区社協の組織化を進めてきました。どの地域にも歴史があって、すべて同じように組織化することはできません。それでも将来を見据えて、少しずつでも始める必要があるとの思いから、旧10町村の行政区の座談会に出て、職員が住民の皆さんと対話を進めてきました。

活動は、見守り活動を基本として、地区の実情に合わせてお茶っこ会や、世代間交流、ふれあい会食会を実施しています。

住民の皆さんのつながりができてきた！

「やはり行政区は集まりやすいようですね。顔の見える範囲で、住民の皆さんのつながりができてきているなと実感します。」と、話すのは、栗原市社協地域福祉課の課長補佐の狩野昭彦さんと千葉美子さん。

東日本大震災の際も自分たちの地域で声を掛け合い、安否確認を行った事例が多く報告されています。留場北地区の鈴木会長さんも「ここでたくさん、おしゃべりしてもらって、ボケたり、家の中にじっとしているのを防ぎたい。認知症だった方が元気に来てくれるようになったりと嬉しいニュースもあります。」と続けてきた実感をお話してくれました。

今後に向けて

それでも、すべての地区で地区社協が組織化されているわけではありません。255行政区あるので、まだ組織化されていないところもあります。そのような地区にも、何か活動をするきっかけになればと、最近進めているのが各地区での防災まっぷづくり事業です。地区の皆さんで地域を歩いて、危険地区を知ったり、一人暮らしの方を把握したり、その後どう地域づくりをするかを住民皆で考えるきっかけづくりの事業です。

栗原市社協で進める小地域福祉活動は、確かな実感を持って広がりを見せています。それでも、まだまだ挑戦は続きます。

栗原市社会福祉協議会
人口　75,296人（平成24年4月現在）
社協データ　職員総数　305人

平成17年に旧築館町、若柳町、栗駒町、高清水町、一迫町、瀬峰町、鶯沢町、金成町、志波姫町、花山村が合併してできた市。地域福祉関連事業をはじめ、介護保険事業、放課後児童クラブなども実施しています。
TEL　0228（23）8070
FAX　0228（22）6012

キラリ☆仕事人

―取得した資格は何ですか？

保育士です。

―今のお仕事をされて何年目ですか？

保育士になって5年目です。いまは、もう一人の先生と一緒に3歳児のクラスを担当しています。

―どのようなお仕事をされているのですか？

保育園は子どもが一日の大半を過ごす場所なので、見守りながら、食事や排せつ、着脱などの基本的な生活習慣を身につけられるようにします。それ以外にも挨拶や片付け、お友だちとの接し方など、生活面の自立、体と心の成長が図れるように保育を行っています。

―いまのお仕事に就いたきっかけや動機を教えてください。

私も幼いころ、保育園に通園していましたが、初めは親から離れて、保育園へ通うことに慣れませんでした。そんな私の想いを受けとめてくれた担任の先生に憧れて、保育士になりたいと思いました。

―やりがいを感じるところは？

子どもたちは、日々成長しています。その成長が見えたときには本当にうれしい気持ちになります。

竹駒保育園（岩沼市）で働く菅野未希さんを紹介します。～午睡前の絵本の時間～

―大変だと感じるところは？

保育は子どもたちとの信頼関係を築くところからスタートします。難しいと感じることもありますが、毎日の関わりの積み重ねが信頼関係につながっていきます。

―心がけていることは？

一番は子どもたちとの遊びを楽しむことです。また、できたことを素直に褒めてあげること。そしていけないことについては、きちんと話をして、叱ることも大切にしています。褒めることで、本人だけではなく、周りの子どもたちにもいろいろな気付きが生まれていきます。

―これから同じ資格を目指す方に一言！

保育士は子どもの成長に深く関わる責任のある仕事です。私たちは保育をする中で、子どもたちからパワーや元気をもらい、たくさんのことを教えてもらいます。子どもとともに、自分たちも成長できる魅力のある仕事です。

相談Q&A

このコーナーでは、宮城県社会福祉協議会がお受けするさまざまな相談を取り上げ、Q&Aで紹介します。

みやぎ地域福祉サポートセンター（まもりーぶ）

福祉サービス利用援助事業について紹介します。

Q「まもりーぶ」とは何ですか？

A　福祉サービス利用援助事業を行っている「みやぎ地域福祉サポートセンター」の愛称です。「まもる」と「びりーぶ」（＝英語で信じる・信頼するの意）を組み合わせた名称で、生活の中で困りごとがある方に対し、安心して自立した生活が送れるようお手伝いしています。

Qどのような人が「まもりーぶ」を利用できるのですか？

A　認知症高齢者の方や知的障害・精神障害などのある方で、必要な福祉サービスを選んだり、金銭の支払いをすることが一人ではできない（自信がない）など、日常生活に不安をお持ちの方を対象として、本人と契約を結び、お手伝いをします。あくまでも本人と社会福祉協議会との契約となるため、本人の代わりに家族が契約をすることはできません。

Q具体的にはどんな手伝いをしてくれるのですか？

A　福祉サービス利用のお手伝い、生活に必要な預貯金を計画的に出金し、お届けしたり、公共料金などの支払い手続きを行うなど、日常的な金銭管理のお手伝いや大切な書類・通帳・印鑑などのお預かりを行っています。

Q誰が手伝ってくれるのですか？

A　支援計画に基づき、各市町村の生活支援員が、ご本人を定期的に訪問します。

Q料金はどのくらいかかりますか？

A　基本料金は一ヵ月700円です。また、サービス提供の時間に応じた料金（30分ごと500円）と旅費が必要になります。また、お預かりサービス（貸金庫利用）を利用される場合は、一ヵ月300円かかります。サービス料金とその旅費については、利用者の生活状況に応じて、申請に基づき免除になる場合があります。

Q利用したいときはどうすればいいのですか？

A　お住まいの地域の社会福祉協議会にご相談・ご連絡ください。

みやぎ地域福祉サポートセンター
TEL　022（212）3388